

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900021		
法人名	株式会社 フレンズホーム		
事業所名	フレンズハウス古新町		
所在地	愛知県名古屋市熱田区古新町2丁目72番地		
自己評価作成日	H25年11月19日	評価結果市町村受理日	平成26年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所(株)		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成25年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域との繋がりを大切にしており多数の行事に参加し地域の仲間入りが出来ている。 ・三重県より温泉を運び、ヒノキのお風呂で週2回温泉気分を楽しんでおり、ご利用者も楽しみにしている。 ・開所より猫を飼っており利用者や職員の癒しとなっている。ご利用者の中には猫と過ごし穏やかな時間を過ごされている方も見られる。 ・ご利用者の意思を大切にし、最低限の安全は確保しつつも必要以上の拘束は行わず思いを尊重している。 ・年に2回の古新会(家族会)の実施や誕生日会、クリスマス会等、ご家族への行事参加により家族同士が交流できる場を設けている。 ・年4回消防・避難訓練を実施し消防署員によるAEDや消火器の扱い方の指導を頂いている。内部研修として搬送法の勉強会も同時に開催している。訓練を多く実施することによりご利用者、職員とも避難に関し意識づけをしている。

<p>職員はお互いに思いやりや、信頼をしいチームワークを大切にするという理念を各フロアにて持ち、具体的な目標に向けてサービスの向上に努めている。また、職員が研修に行く機会を多く持ち知識向上に役立っている。地域の行事としては町内のパトロールやいきいきサロンなどに職員と利用者が一緒に参加して交流を図っており、良好な関係が築かれている。特に防災訓練には力を入れており、年に4回、消防団の人を中心に実施している。今回は、AEDの取り扱いや消化器の取り扱いの方法を地域と職員が学びつつも利用者を避難できるように取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットごとに理念決めをフロアに掲示し、会議では理念の唱和をしている。又理念に基づき目標を決定し3ヶ月ごとにケアに反映しているかを振り返り見直している。職員が同じ目標を持つことにより施設のケアの向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事(いきいきサロン・0の日/パトロール・秋祭り等)に参加をされており、ご利用者の楽しみとなっている。又散歩時など挨拶には心がけているが、地域の方に顔を覚えて頂いており地域の方から挨拶をして下さることもある。災害時の応援も快く受けて頂き協力体制が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事への参加を通してご利用者と関わりを持つことにより認知症の理解をして頂いている。地域の方には運営推進会議で認知症の症状を説明する程度で具体的な支援方法を話す機会は少ないが施設に対しての理解をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設の様子や運営・活動報告をしている。町内会町が参加している為、地域の行事に数多く誘いがあり参加している。施設に対し意見・助言も頂いている。頂いた意見・助言は会議で報告し議事録も職員の目の通せるようファイルに綴じてある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方を受け入れる事で関わりを持つことが多くなった。生活保護担当者が施設訪問し話をする機会が持てている。いきいき支援センターの職員も運営推進会議に参加して頂けてるため施設の運営状況も報告している。また、高齢者に対してのアドバイスを頂けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関の施錠をしているが、日中の施錠はしていない。センサーを設置し離接しようとするご利用者に気付けよう心がけているが外に出ようとした場合、制止はせず職員が付き添い一緒に出掛け、ご利用者の思いを大切にしている。安心・安全に暮らせる支援をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で話し合い対応を検討し、虐待に繋がらない様に努めている。日頃のケアに対して声掛けが不十分であり、対応に関しても出来ていない部分もあるため、内部研修として認知症の勉強会を個々に開催し、職員全員が理解しケアの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用しているご利用者がいないため詳細は把握できていない。研修には参加しているが勉強会までに結びついてはいないので、全職員は制度を理解していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人や家族に施設の方針や希望を聞き、施設の様子も話す事で理解を頂いている。また希望や疑問もお聞きし、出来る範囲でのケア方法やお答えをしてから納得の上、契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、実際は面会時に話すことが多い。年2回の家族会では意見を頂き内容により会議で話し合っている。必要に応じて電話で連絡し意見をお聞きする事もある。内容は全て職員間で周知し支援に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から話を聞いてくれることが多く、会議などでも意見を出し合う場が設けられている。年2回、個別面談が実施されており意見を述べる機会があるため提案も反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に現場に訪れ声を掛けてくれている。外部研修に参加する機会を多く設け、向上心を持って働く事が出来ている。勤務条件も考慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には1ヶ月の研修期間があり研修をしっかりと受けているが、その後も分からないことは、その都度丁寧に説明してもらっている。外部研修では職員の経験に合った研修が受講できるよう配慮しており、また必要に応じて内部研修も実施し、働きながら向上できる機会を設けてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人での行事に参加し交流を深めている。また他施設との交流もあり行事に参加している。外部研修では他施設との交流を持ったり、自施設の内部研修にも参加を呼び掛ける事もある。より多くの研修に参加することによりサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前からアセスメントシート等で情報収集を行い、入居後からはセンター方式のシートを利用して情報収集を行い、ご利用者からの要望・訴えも細かく記入している。その情報を職員同士共有しケアに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には入居前より希望・不安・困っている事などを聞き、どのような支援が出来るか説明している。希望に添える支援をケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人・ご家族が必要とするケアを見極め、福祉用具やマッサージなどお勧めしている。入居後も必要に応じ福祉用具などの検討をし、導入する際はご家族に説明し合意を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たたみ等できる事はやっけて頂いている。雑巾・パッチワークなども縫って頂いたり、食事の手伝いもして頂いている。自発的に片付けを行って下さる方もいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時状態報告をしたり、日頃の様子を伝えるようにしている。誕生日会にはご家族を招待し共にお祝いをしている。職員だけの関わりだけで生活していくのではなく、ご家族と一緒にご本人を支えて行けるよう協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仲の良い方が入院した時には職員とお見舞いに行ったり、親戚・友人・知人などの面会がみられる。ご家族の協力のもと友人の方の所へ出かけたり、行きつけの美容院や教会にも行っている。ご本人が大切にしているものは途切れない様にしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアの席や散歩など摩擦が起こらぬよう検討し、円滑な関係を築けるように配慮している。ご利用者が孤立する事のないよう職員が間に入り関係が保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行かれても時間を作り面会に行っている。長期入院による退去の場合でも、仲の良かったご利用者をお連れしてお見舞いに伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プランを作成するときには必ず希望を聞いたりしている。また普段から何を望んでいるか話を聞いたり、会話などから思いを汲み取り職員同士でも情報交換し把握できるように努めている。課題があればカンファレンスや会議で話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりご本人の情報を収集しているが十分ではないため入居後も日々の会話の中でこれまでの生き方や暮らしぶりを汲み取り、現在の性格を理解する様になっている。情報はファイリングいつでも見られるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があれば記録に残すこと、申し送りするなど職員一人一人が変化やその方の現状を共有し、把握できるように心がけている。またご自分のペースで過せる時間も作り支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族に要望を聞き介護計画に反映している。またカンファレンス時にはアンケートにより、職員全員の意見を聞いている。期限内でも変化があればプラン変更のためカンファレンスを開催している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施表にプランが実施できたか記入し内容もどんなサービスが必要か把握できるようにしている。またプランに反映させるため、様子はなるべく細かく記入するようにしている。個別の申し送りノートも利用し情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院は基本、ご家族に依頼しているが急変時など状況に応じ、緊急性に高い時や対応が難しい時は臨機応変に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、訪問眼科、訪問理美容、フラワー教室等を活用したり、町内行事に参加する機会を設けている。また地域で行われている、いきいきサロンに参加している。事業所の行事に町内の方の協力をお願いする事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族がかかりつけ医を希望される方もいるが、現在はほとんどの方が協力医の往診を受けている。なかにはご家族の対応で内科医以外を定期的に病院受診している方もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度健康管理のため往診を受けている。その際、状態など報告し情報を共有するようにしている。ご本人が気になっている事を相談する事もあるが、職員も相談しアドバイスをして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し情報を伝えている。入院期間中は定期的に見舞い状態把握をしている。退院時には主治医より情報を提供してもらいADLの低下など把握し生活環境作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は施設で出来る支援を、ご家族に説明しご家族の意向も尊重しながら納得のうえで方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しており、定期的に勉強会も行っている。搬送法の勉強会や緊急連絡網の確認を消防訓練と共に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と共に消防訓練と避難訓練を行っている。ご利用者には個々に非常袋を用意し、避難の際には持ち出す事となっている。避難時は地域の方に協力して頂ける体制が出来ている。また訓練を多く実施し、ご利用者や職員も避難する事を身につけられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護を行う際に声掛けや介護中のプライバシー保護に配慮し、外部と関わる時にも気を付けている。職員間でも送りや会話の際には、ご利用者の個人名は出さず居室番号にて内容を伝えるなどの配慮をしている。ご利用者は人生の先輩として言葉遣いや声掛けには気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、ご利用者一人一人に対し答えやすいように選択肢を提供し、自己決定して頂けるようにしている。また飲み物提供の際には希望を聞き、味や温度に対しても好みを尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、その方がやりたい事できることを行ってもらえるように出来る限り時間を作っている。散歩なども希望している時に対応する努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時にはご本人に選んで頂いている。外出時には好みの服を着てもらいオシャレを楽しんで頂いている。化粧をしている方もおり自室の鏡台でメイクされたり、行きつけの美容院へ行かれる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は決まっているが好みや嫌いなものは別メニューを提供している。またメニューを貼りだす事で楽しみにしている方もみられる。ホットプレートを利用し、おやつと一緒に作ることもある。食事の盛り付けや食器拭きはほとんどご利用者が行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量は必ず記録している。一日1000mlは摂取してもらうよう対応している。食事があまりに少なかった場合、主治医に相談し補食を提供するなど必要に応じて対応している。また個人の希望する菓子や果物も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の汚れはチェックしていないが歯磨きの声掛けはしている。義歯に関しては夜回収し洗浄している。また月に一回歯科往診があり個々の口腔ケアの指導を受け職員も周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて、一人一人に適したパット選びをしている。また排泄チェック表を使用しリズムをつかんでいる。また、個々に時間をみて声掛けをしている。失敗が多い時には間隔を短くして誘導する等の個々に合わせた対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物を工夫したり(野菜ジュースや牛乳など)、バナナを毎日提供、便秘の方には鍼水摂取や体操・腹部マッサージなどを下剤を内服せず便秘対策をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間・順番などはできるだけ希望に沿えるよう努力している。毎日入浴したいと希望される方には希望に沿えるよう対応している。またお湯の温度などにも気を配り気持ち良く入って頂けるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくレクリエーションに参加して頂き、活動を促すことにより夜間帯は眠れるように対応している。また居室内の室温調節にも配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てのご利用者の内服薬を職員が理解は出来ていない。直ぐ見て確認が出来る様にファイルにまとめてある。分からない時や薬が変更になった時は薬剤師に聞き、副作用や注意事項も聞き送り把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いはその方が好む事や得意とされている事を提供している。裁縫が得意な方には雑巾・パッチワーク作りをしている。またクイズや歌の提供をしたり料理の下ごしらえも手伝ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やパトロール・神社のお参り・水やりなど一日一回は外に行くことが出来るようにしている。普段いけない所(喫茶店や大きな公園など)へも希望を聞き個別レクとして支援している。また春には遠足、秋には日帰り温泉旅行も恒例となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来る方はご家族の了解のもと個人で少額のお小遣いを持っており、買い物時には自己にて支払われている。生活保護の方は金銭の使用に制限があり希望には添えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時には電話する機会を作っているが頻度が多い方はご家族の都合もあり、全ての希望には沿えていない。手紙を書く支援をしているが完成せず、ご本人が出すことを拒否する為やり取りは出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁紙をご利用者で作成し飾っている。室内温度も快適に過ごせるようエアコンの調節をしている。またトイレや居室に貼り紙をし、迷うことなく分かりやすくするため配慮している。共用の玄関先にはプランターに花を植えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の工夫や配慮を一人一人過ごしやすいようにしている。なるべく気の合った方同士、席が横になる様にしている。リビングにソファを置きくつろげる場所の提供もしている。また仲の良い方同士誘い合い、居室で過している事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・小物などご本人が使用していた使い慣れた物を持ってきて頂いている。配置などもご本人とご家族で決め過ごしやすい環境としている。またご家族との写真やご自分で作った物を飾っている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のベッドの位置など決めてもらっているが、危険がなく安全に過ごせることが出来るようにアドバイスもしている。フロアでも危険がないよう物の配置や道具の置き場など検討している。		